

事業報告

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過およびその成果

当期わが国の経済は、平成20年以降の米国のサブプライムローン問題に起因する金融危機による景気低迷から一部回復しつつあるといえども、地方経済は依然として厳しい状況の様相は変わらず、雇用情勢等においても厳しい状況が続いております。

当社におきましては、急激な少子化・過疎化の進行やモータリゼーションの進展などの厳しい経営環境の中、平成21年11月に国の認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」の本格的な実施年度として「地域の生活路線として住民の足を確保すること」、「観光路線として全国から三陸においていただくこと」の2本の柱で安全運行に取り組んでまいりました。

前期は、JR東日本との連携の「大人の休日倶楽部」等の企画により観光の誘客は順調でしたが、後期は天候不順により観光ツアー・イベント列車の中止や一般個札の不振等により、厳しい状況となりました。

さらに、3月11日に発生した東日本大震災により南・北リアス線に甚大な被害を受けましたが安全確認等を速やかに実施し、震災発生5日後の3月16日には北リアス線「久慈～陸中野田間」を、3月20日には「宮古～田老間」を、さらに28日には「宮古～小本間」を「復興支援列車」として、被災地における交通手段として無料で運行しました。しかし、北リアス線のその他の区間および南リアス線については被災状況が甚大なことから運行の目処が立たないという厳しい状況となりました。

これらの結果、当期の主な概況は次のとおりであります。

表1 経常収入・経常利益の状況

(単位：千円)

項目	21年度	22年度	22年度	前年増減	同増減比	計画増減	同増減比
	実績	計画	実績				
運輸収入	343,300	376,202	322,534	-20,766	-6.05%	-53,668	-14.27%
運輸雑収	33,237	36,400	38,008	4,771	14.35%	1,608	4.42%
関連事業収入	51,277	41,500	71,881	20,604	40.18%	30,381	73.21%
経常収入	427,814	454,102	432,423	4,609	1.08%	-21,679	-4.77%
経常費用	562,994	581,248	582,373	19,379	3.44%	1,125	0.19%
経常損益	-135,180	-127,146	-149,950	-14,770	10.93%	-22,804	17.93%
特別利益	432,510	396,354	498,189	65,679	15.19%	101,835	25.69%
特別損失	272,482	248,366	362,983	90,501	33.21%	114,617	46.15%
当期利益	22,349	18,642	-17,058	-39,407	-176.33%	-35,700	-191.50%

2 営業の概況およびその成果

表2、輸送実績

(単位：人／千円／税抜)

項目	当期実績	前年実績	増減
乗車人員	851,456	895,570	-44,114
運輸収入	322,534	343,300	-20,766
(一般個札)	(164,456)	(174,900)	(-10,444)
(定期券)	(92,698)	(95,300)	(-2,602)
(地元団体)	(16,062)	(16,100)	(-38)
(観光団体)	(49,318)	(57,000)	(-7,682)

■安全安定輸送への取組

- ・施設＝橋梁14箇所、トンネル2箇所の要注意箇所を改修
南北リアス線各1区間について木マクラギからPC（コンクリート）マクラギへ交換
- ・車両＝自動列車停止装置と制動装置改良（2両）
- ・大雨による土砂崩れを想定した実車訓練
- ・当社「安全を考える日」に全社員非常呼集訓練

■支援の状況

- ・鉄道軌道輸送対策事業補助金 248,201千円
(橋梁・トンネル・車両等の改修工事、PCマクラギ化)
- ・運営費補助金 230,721千円 (設備維持補助金 147,988千円)
(国庫補助会社負担分 82,733千円)

■鉄道事業営業概況

(利便性及び収益向上策)

- ・当社では25年ぶりとなる新駅「山口団地駅」開業
- ・JR東日本の企画きっぷ「大人の休日倶楽部パス」「北東北・函館フリー乗車券」へ当社線を組み込みいただく
- ・駅長、アテンダントによるセールスやポスティングなど、地元への新規営業活動を強化
- ・大手旅行会社への営業は、新たに北海道、山陽、東海方面へ販売拡大

(企画列車運行)

- ・八戸＝宮古の「さんりくトレインうみねこ」、盛岡＝宮古の「さんりくトレイン宮古」を、いずれもアテンダント乗務にて運行。
- ・南リアス線にて、産直列車を春と秋の連休期間、定期列車に連結し運行

(各種イベント)

- ・恒例の3鉄まつり（大船渡市）、秋のさんてつ祭（久慈市）、三鉄ウォーキング（釜石市ほか各地）を開催
- ・JR東日本「駅からハイキング」で三鉄沿線駅のコース設定を拡大
- ・宮古地区で「さかなクンと海の科学を学ぶ」等、地元団体との共同企画イベント実施

■関連事業営業概況

(物産企画)

- ・「久慈ありす住民票」など、「鉄道むすめ」キャラクターのバリエーションを新展開
- ・山口団地駅開業記念グッズの開発、販売
- ・恒例のお中元、お歳暮は沿線特産品を中心としたラインナップで8,000千円の販売
- ・さんてつ祭等自社イベントのほか、IGR 銀河鉄道まつりなど他社イベントへの参加出店

(旅行業)

- ・着地型企画商品＝年間243名の取扱。定番の「三鉄沿線の旅」「三鉄タクシープラン」に加え、新たに当社「地旅」企画がJRに採用され、「びゅう旅市」商品として首都圏びゅうプラザにて発売
- ・受注型団体旅行＝教育旅行をはじめ、行政視察研修など37団体916名の取扱
- ・募集型団体旅行＝恐山参拝団、大曲花火大会、繋温泉大名湯治など14件484名参加

3 対処すべき課題 復興に向けて

今回の震災により、当社のみならず三陸沿岸地域は、甚大な被害を受けました。

震災直後から、多くの方が家や車を失い、買い物や病院にも行けない状況を目の当たりにした私たちの結論は、「とにかく復旧できるところから列車を動かそう」でした。

震災から5日後の3月16日に久慈～陸中野田間で、3月20日には宮古～田老間(3月29日から小本まで延伸)で運転を再開しました。被災したお客様からの「ありがとう」の言葉が耳に残りました。不眠不休で復旧作業に当たった社員にも笑顔がありました。

しかし、自力で復旧できるのはここまでです。現在の運転再開区間は全線の1/3、輸送力は震災前の1/10にすぎません。残りの区間の復旧は、国などの支援がないとできません。全面復旧には、莫大な経費と長い時間が必要です。

私たちは、三陸鉄道の復旧が三陸沿岸地域の明日への希望であることを信じています。そのため気力を振り絞り、社員一丸となって再建に向け取り組んでまいります。

4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は350,201千円であり、その内容は次のとおりです。

- ・鉄道軌道輸送対策事業 248,201千円(橋梁・トンネル・車両改修、マクラギ交換)
- ・駅老朽化対応等改修事業 42,000千円(南北23駅誘導タイル等改修)
- ・新駅設置事業 60,000千円(山口団地駅)

5 資金調達の状況

該当する事項はありません。

6 直前3事業年度の財産および損益の状況

(単位：千円／税抜)

区 分	19年度	20年度	21年度	22年度
	(第27期)	(第28期)	(第29期)	(第30期) ※当事業年度
営業収益	446,631千円	413,711千円	423,532千円	425,580千円
当期純利益	8,534千円	△39,794千円	22,349千円	△17,058千円
1株当り当期純利益	284円	△1,326円	744円	△568円
総資産合計	438,142千円	505,610千円	632,085千円	615,281千円

7 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- ・鉄道事業法による第1種鉄道事業およびこれに付帯関連する事業
- ・旅行業法による第2種旅行業
- ・物品販売業

8 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	盛岡市内丸10番1号
事業所 ・ 事業本部	宮古市栄町4番地
宮古駅	同上
施設管理部	久慈市川崎町10番20号
・ 北リアス線運行部	久慈市川崎町10番20号
久慈駅	久慈市中央3丁目38番2号
・ 南リアス線運行部	大船渡市盛町馬場4番4号
釜石駅	釜石市鈴子町22番5号
盛駅	大船渡市盛町字東町裏16番

※市町村等への業務委託駅 陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・島越駅
小本駅・田老駅・三陸駅・綾里駅

9 従業員の状況

区 分	従業員数	平均年齢	平均勤続年数
男 子	63名	44.5才	20年4ヶ月
女 子	1名	50.0才	2年7ヶ月
計	64名	44.6才	20年2ヶ月

(注) 上記には、久慈市ふるさと体験学習協会への出向従業員1名を含んでおります。
この外に、臨時雇用従業員が32名おります。

10 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県および岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.3%(22,600株)の出資を受けております。

※ 岩手県48%(14,400株)

沿線市町村19.3%(5,800株) 沿線外市町村8%(2,400株)

当社は、岩手県知事が会長に就任しております。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000株
- 2 発行済株式の総数 30,000株
- 3 当事業年度末の株主数 46名
- 4 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400株	48.0%
宮古市	1,350株	4.5%
㈱岩手銀行	1,200株	4.0%
大船渡市	1,150株	3.8%
新日本製鐵㈱	1,000株	3.3%
東北電力㈱	1,000株	3.3%
一関市	700株	2.3%
久慈市	650株	2.2%
釜石市	650株	2.2%

Ⅲ 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏 名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達 増 拓 也	岩手県知事
取締役副会長	山 本 正 徳	宮古市長
取締役副会長	山 内 隆 文	久慈市長
取締役副会長	野 田 武 則	釜石市長
代表取締役社長	望 月 正 彦	
取 締 役	伊 達 勝 身	岩泉町長
取 締 役	上 机 莞 治	田野畑村長
取 締 役	深 渡 宏	普代村長
取 締 役	小 田 祐 士	野田村長
取 締 役	須 藤 薫	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取 締 役	大 井 誠 治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取 締 役	宮 館 壽 喜	岩手県副知事
取 締 役	加 藤 主 税	岩手県政策地域部長
監 査 役	永 野 勝 美	(株)岩手銀行 特別常任相談役
監 査 役	佐 藤 安 紀	(株)北日本銀行 取締役頭取

(注) 取締役の甘竹勝郎氏・谷藤裕明氏は、平成22年12月1日に退任いたしました。

2 取締役または監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 4,815千円

監査役の報酬はありません。

Ⅳ 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。